

平成25年度 第1回 緩和ケア勉強会のご報告

平成25年度第1回の緩和ケア勉強会は、4月11日に開催いたしました。出席人数は、55人、うち院内30人、院外25人でした。今回のアンケートでは質問事項が特にありませんでしたので、印象に残った内容、取り上げてほしいテーマ、ご意見・ご感想について下記にまとめました。

印象に残った内容

- ・伊藤先生の事例が分かりやすかった。チームの介入はすごいと思った。
- ・腹腔神経叢ブロックで少しでもPtの疼痛緩和ができることで、在宅につなげることができると思う。
- ・呼吸器内科のお話で、地域で診療時間外にも対応していらっしゃる医師がたくさんいることが印象的だった。在宅緩和が進むためには、夜間などの対応の工夫が進まないと難しいと思う。
- ・いかに地域連携が大切かということが、とても印象に残った。患者さんのQOLを大切にしているのが、とても伝わった。
- ・緩和ケアについて地域で活動している現状が理解できた。
- ・地域が大きい病院になっている考え方を変えることで、患者さんも気持ちが楽になるのではないかと感じた。
- ・「地域は大きな病院」
- ・“主治医2人制”
- ・在宅で最期を看てもらえる患者が増えていることは、望ましい方向であると思う。
- ・生存退院の多さや、すみやかな在宅療養への移行がとても印象的だった。

今後テーマとして取り上げてほしい内容

- ・1つの症例を丁寧に薬の量、バイタルの変化、気持ちの変化などについて検討する会があると良い。
- ・全国の在宅緩和における夜間などの対応の工夫

※テーマとして取り上げてほしい内容は、来年度以降の勉強会・講演会の参考にさせていただきます。

ご意見・ご感想

- ・在宅病院での治療、移行をスムーズにしていくためにお互いを知る、早期に介入をすすめていく、患者さんの思いを大切にという心構えをもって、これからもケアをすすめていきたいと思った。
- ・「小さな病院」「大きな病院」がすごく分かりやすかった。先生の熱意が伝わった。

ご意見・ご感想、どうもありがとうございました。今後もどしどしご意見をお寄せください。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院
地域医療連携センター FAX: 0572-22-7948
緩和ケア部 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp